

きんもくせい

令和4年 学校教育だより

May **5** 第353号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711(内線622)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



今年度もピタッとくつそろえ

写真提供／関沢小学校

ピアノ

ふじみ野小学校 五年

田中 結衣

わたしはピアノをひく
がくふを見ながら

わたしはピアノをひく
とどきたい気持ちで

メロディーにのせて

わたしはピアノをひく

目の前にいる人に

この音楽をとどけるために

音楽科における「わかる授業」とは

中学校に入学後、最初の授業で音楽が苦手と挙手した生徒に理由を聞いてみると、音符が読めない(楽譜が読めない)からわからない、難しい、と思っている生徒が少なくありません。音符がわかり、楽譜を読めるようになることは重要なことですし、経験を積むことによって読めるようになります。今回は、週一回の音楽の授業でそれぞれの苦手意識を取り払うべく音楽の授業を工夫し、「わかる」ためにまず「できる」をめざし、「ぜひとも音楽好きになっほしい!」と願いながら日々実践してきたことを紹介します。

力・判断力・表現力の育成 音楽の授業をめざして

元本郷中学校 教諭 宮沢 高章

**技能の向上、知識の定着
と思考力・判断力・表現
力の育成**

(1) ウォーミングアップ

体育の授業に準備運動が必要であるのと同じように、音楽の授業でもウォーミングアップを大切にしています。本校では、「呼吸トレーニング」「上を向いてあいーん」「エアーあいうえお」「リップロール」を音楽系の生徒の進行で取り組んでいます。

(2) ルーティンを大切に

授業は校歌を歌うことから始めます。自信をもって校歌が



南畑小学校 6年

渡邊 陽音

第61代鼓笛隊

私は12月から受け継いだ鼓笛隊の練習をがんばっています。第61代鼓笛隊のテーマは「輝」です。「輝」に込められた思いは、コロナで光が見えない中でも自分たちが輝いていきたいという思いで決まりました。私は主指揮に選ばれました。主指揮は、笛が難しいです。上手に行うために、タイミングを意識して練習しています。

私は、まだまだ苦手な難しい笛をがんばりたいです。南畑小の伝統の鼓笛隊のよさを周りの人にしっかりと伝えられるようにこれからも責任感をもって取り組んでいきたいです。



歌えるようになるだけでなく、発声練習も兼ねています。生徒は歌う前に必ず「ハイチエスの姿勢」「まゆアップほっぺアップ」「声を飛ばす方向」について確認してから歌います。大きな声で歌うことはもちろんですが、良い歌声、良い響きを一人一人が意識しながら歌うことを毎回続けることで、歌声が太く、張りのある豊かな響きに成長するのです。

(3) 練習の効率化と意義

例えば合唱曲に取り組む際、本校ではパート練習の回数を三回と決めて取り組めます。

三回の練習では単なる音取りだけでなく、歌詞の内容の理解や大切にすべき発音、表現方法までを範囲とし、楽曲を自分のものにする意識をもって練習しています。「今日はどこまでをどのように」など、パトリダーを中心に目標を定め、協力して歌い合わせていくことで生徒一人一人がパート練習に真剣に取り組んでいます。

(4) 「なぜ?」「どうやって?」…思考・判断の場面を多く取り入れる

例えば「このあと、どうやって(どう変化して)いくと思

わかる授業 二 中学校 音楽 二

知識・技能の向上と思考 「できる喜び」を味わう

う？」鑑賞の授業や（後述の）箏の授業等で、楽曲に向き合い想像を膨らませる場面を多く設定し、関心も高めま

す。
学び合い、話し合いで思考力・判断力を高める器
楽「箏」の授業
一年生において、箏曲「六段の調」を鑑賞し、箏や八橋検校について学んだあと、実際に箏に触れ親しむ授業を行いました。



一時間目 「虫づくし」で箏に慣れよう

歌詞が「まつむし すすむし くつむし こおろぎ はたおり きりぎりす」という「虫づくし」で箏の基本的な弾き方を学びます。虫の名前は四文字、四文字、五文字合計が十三文字で、箏の弦の数と一致するので楽譜を見ることはあえてせず、日本の伝統音楽の有効手段である口唱歌（口伝え）を用いて取り組みました。始める前は「難しそう」と言っていた生徒も、すぐにできて満足していました。

二時間目 「さくらさくら」を演奏しよう

「さくらさくら」の歌詞を覚えていないが、メロディーはほとんどの生徒が知っていました。最初のフレーズだけを教え、「あとは自分たちで探ってみよう」という課題にしました。さて結果は…。

おわりに

「約束・安心」↓「できたわかった」↓「もっとこうなりた

い」
生徒には常に「音楽室は表現力向上のための部屋だから、まずは全力で」と話しています。今後も、授業の流れの明確化と約束・安心して取り組める環境で、生徒が技能の向上を実感しながら思考・判断を繰り返していき、表現力の向上に繋がっていきたいと思います。

指導・講評

本郷中学校前校長 上堀 護
課題の解決に向けて友と熱く語り合う姿、パート練習ではつらつと唄う姿、鑑賞曲を聴き新たな気づきに感動する姿。音楽室では、いつも子どもたちが躍動しています。そのような子どもたちの成長を生み出し、一人一人の子どもを伸ばす宮沢教諭の高い指導力により、本校はどの子ども音楽が大好きです。その礎となったのは間違いなく宮沢教諭の指導です。
(※四月より勝瀬中学校に着任されました。)

特別支援教育

恵まれた自然を最大限に生かして

東中学校 教諭 池田 文子

東中の特色は、自然に囲まれていることです。学級名の「いなほ」もここから名付けられました。春は稲の緑が風にゆれて涼しく、秋は稲の穂が一面黄金色に輝きます。

までやりきる。三、諦めずに歩前に踏み出す。この目標を学校生活の中で色々な場面でお互いに声をかけながら取り組んでいます。

いなほ学級には、生徒全員で決めた学級目標が三つあります。一、自分から進んで挨拶をする。二、苦手な事でも諦めずに取り組み、最後

また、地域の方々がいなほ学級に体験学習の協力をしてくれます。一つ目は、梅狩りです。取った梅を選別↓計量↓加工↓販売と活動しています。二つ目は、田植えと稲刈りです。

田植えをしてから一か月毎に田んぼに行つて稲の成長を観察します。稲刈りは、コンバインの入りづらいつころを鎌で刈らせてもらいます。昔の人の大変さや食のありがたさを学ぶことができています。
合唱祭は、毎年百人近くの有志合唱団とともに発表します。たくさんさんの生徒と歌うことで自信がつき、当日は心に響くすばらしい歌声を披露することができています。校内、校外ともに教育実践を展開し、社会自立に向けた有意義な学校生活を送っています。

興味は成長への第一歩

南畑小学校 保護者 新井 亨

先日、私が自宅でパソコンを使っていると娘達が近づいてきて「小学校で使っているパソコンと一緒だね。」と言いなながら、しばらく隣で画面を見ていました。昨年度に市内小中学校で貸与されたパソコン等の影響により、幼い頃から何気なく目にしていたはずのものが、自らの興味の対象へと変化しているのだと思いました。

私の小中学生時代はまだパソコンに触れる機会は少なく、興味も必要性も感じておりませんでした。しかし、現在は年代を問わずあらゆる場面で必要とされ、小・中学校の通常授業でも使われるほど日常の一部になりつつあります。そのような中で、子どもたちが未知のものへ強い興味を持ち、自ら覚えようとする姿に、少しではあります。ですが確かな成長を感じました。



子どもたちが成長し、これから迎える新しい時代では幅広い知識だけでなく、柔軟な思考力、積極的な行動力が求められると言われています。自ら興味を持ち、考えながら行動することは、まさにこのような「力」を身に付ける過程として重要であり、子どもとの関わりの中で、興味が向いている方向を常に把握していく必要があると感じています。

今後日常生活の中で子どもたちが抱いた興味というきっかけを大切に、子どもたちの考えを尊重しながら見守っていきたいと思います。そして、子どもたちには自身の持つ多くの可能性を信じて、様々なことに挑戦してもらいたいと思います。

過ごしやすい学校を目指して

西中学校

西中学校では、令和二年度より二年間、「自分の個性を生かし、活躍できる学校を目指す」と、不登校を未然に防ぐ学級づくり」という研究主題のもと、「アクセスを活用した生徒支援」を行ってきました。

アクセスとは子どもたちの学校適応感を測定するために開発された尺度のことです。数値が低いということは、本人がSOSを発信しているということになります。



した。
今年度もアクセスを活用した生徒支援に力を入れ、生徒が過ごしやすい学校づくりをめざします。

はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

成長が感じられる嬉しさ

勝瀬中学校 保護者 勝山 祥

勝瀬中学校PTA常任委員会には校長先生をはじめ、教頭先生、教務主任の先生も参加されるので、学校生活の様子を詳しく聞くことができます。コロナ禍ではありますが、工夫を重ねる学校生活、行事に取り組まれていることが分かり感謝です。

私には中学三年生の長男と小学生の長女と次女がいます。長男が小学校を卒業する

ときは新型コロナウイルス感染症により、保護者は入場できませんでした。中学校も臨時休業により、二ヶ月遅れて始まりました。当初は多くの行事や大会が中止になっておりましたが、徐々に規模や方法を変更しての開催が多くなってきました。昨年の秋には「フェスタ勝中」が二年ぶりに開催され、入学以来フェスタを知らない一、二年生、最後の三年生

とそれぞれの表情を見ることができました。

行事で楽しみなことは子どもの新しい姿を見ることができると見せる大人びた姿や、友達と楽しそうにしている場面は親に見せる顔とは違い、成長が感じられます。

親として成長を感じる事は嬉しさと寂しさ両方ですが、その二つを少しでも多く感じられる機会が増えるように願っています。



自分たちの『なぜ?』を追究して

水谷小学校

水谷小学校では、今年度(令和三年度)から総合の学習の時間に、三年生から六年生の異年齢グループで八つのテーマに分かれて学習をしています。自分たちで野菜を育てたり、新型コロナウイルス感染症の仕組みや感染症の歴史についてパソコンで調べたり、世界の遊びを調べて実際に遊んだりと、それぞれのグループで様々な活動を行っています。



新型コロナウイルス感染症のため、活動に制限がありました。

ただ、その中でも子どもたちは「コロナを予防する石けんや除菌シートのつくり方を紹介しよう!」や「よく見ると、自分のまわりには様々な植物があることが分かった!」など、活動を通して新たなことを生み出したり、気づいたりしていました。学年を問わず、同じ関心をもつ者同士が力を合わせて自

教育課題特集

生きる力を



自分たちの『なぜ?』を追究する姿から、これからの変化の激しい社会を生き抜くために必要な「生きる力」が、確実に身に付いていると感じます。

互いに寄り添い、違いを理解し合う育みの場へ

富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ 館長 矢野 哲史

「よく、学校で話しているとなぜだか引かれちゃうんだよね。」と笑顔で話す小学生。これは、キラリ☆ふじみで毎月開催している、芸術監督と小学生が一緒に作る遊び場「こどもステーション」に来ている小学生が会話の中で何気なく言った言葉です。

私は、この原稿の依頼を受けたとき、直ぐにこのことが頭に浮かびました。

とても物知りで、好奇心旺盛で、大人や子どもに分け隔てなく打ち解けていく様子からは、とても意外だったのを覚えています。ふとした瞬間のことで、この言葉にある心情がどれほどかは推し量れませんが、普段の環境では言いづらいことを打ち明けることができたり、そのことに寄り添ったり理解し合える場がとても大切で、キラリ☆ふじみはそうした場であり続けたいと実感した瞬間でもありました。

キラリ☆ふじみでは、若い世代にむけた鑑賞や学校での

能や狂言など、舞台芸術のワークショップなどの体験の機会を設けています。それは、感謝のことばや評価の声をいただき、成果を実感できるとても有難いものです。こうした場づくりの活動では、この子が表してくれたような、ふとした瞬間を見逃さずに紡いでいくことがとても大切です。キラリ☆ふじみは子どもから直接、確かな成果を受け取れる貴重な場所として、これからもそんな場づくりを丁寧に深めていきます。これから待っている沢山の出会いに心を弾ませながら。





諏訪小

校庭の花々が色鮮やかに咲き、木々の緑が明るい日差しで輝く中、令和四年度がスタートしました。
入学・進学した子どもたちは、新たな目標を掲げて学校生活に取り組んでいます。上級生が、下級生の手本となるように努力している姿を見ることができ、とてもうれしく思います。新型コロナウイルス感染症の影響はまだ続いています。安全・安心な環境で子どもたちが生活できるように、教職員一同、感染防止対策を講じていきます。また、子どもたちの持つ力をさらに伸ばすために、実態に応じた計画を立てて教育活動を行っていきます。
この学校TODAYでは、富士見市内の小・中・特別支援学校の特色ある活動の様子を紹介させていただきます。生き生きと活躍する子どもたちの姿をご覧ください。

いつでも どこでも だれにでも

地域の方にも進んで挨拶できる児童が増えました。毎日様々な場所で素敵な声が聞こえます。



西中



新たな一年に幸あれ!

希望に満ちた一年の始まりです!新入生141名を迎えた西中学校は、今年も色々なことにチャレンジしてパワーアップしていきます。

みずほ台小



6年生の初仕事～準備登校～

6年生が始業式・入学式の準備をしてくれました。黙々と作業する姿は頼もしく、最高学年の風格を感じました。

勝瀬小



目指せ歴代記録!8(えい)フェス

クラスの団結力と体力向上を目的に、各クラス2チーム編成で8の字跳びに取り組みます。今大会最高記録は699回(5分間)でした。来年度も楽しみです

II 市教育相談室よりII

『教育相談Q&A』

Q 「あすなろ」ってどんな教室？

A 「あすなろ」とは、富士見市教育相談室（富士見特別支援学校三階）に設置されている適応指導教室の名称です。この教室では学校に行きたいけれど行けない市内の小・中学校に在籍する児童生徒が将来、社会的自立を掴めるように支援しています。

「あすなろ」は、午前九時から午後二時三十分まで開室しています。本人の意思を尊重しながら、個々の状態に応じて通い方や過ごし方を保護者の方と一緒に考えていきます。

「あすなろ」では、様々な体験活動や遊びを通じて情緒の安定を図り、小集団による人と人とのかわりを通して、自主性を支援します。また一人一人の学力に応じた学習支援を進め、学習の遅れやつまずきの解消を目指しています。

〈開室期間と主な体験活動〉

一学期 四月一日から七月八日

始業式、花の苗植え、ピーマン・プチトマト・キュウリなどの栽培、終業式等



関
沢
小

新登校班で仲良く登校

新年度、1年生を迎えて、班長が歩くペースを考えながら、仲良く登校する様子が頼もしいです。



東
中

入学おめでとう!

東中では第47回入学式が行われ、新入生98名が東中生となりました。まだ、着慣れないぶかぶかの制服を身につけて、中学校生活を歩みます。



水
谷
東
小

よりよい東小を!児童会会長選挙

6年生による児童会会長の選挙が行われました。高学年で学校をよりよくしようとみんな真剣に参加していました。



勝
瀬
中

朝イチ学習会

テスト前に、朝7:30から8:00まで自習します。多くの生徒が意欲的に取り組んでおり、点数アップにつながっています。



針
ヶ
谷
小

青空の下での始業式

新しい学年に胸をふくらませた子供たちの笑顔が、マスクを通して、たくさん見られた始業式となりました。

二学期 八月二十五日から十二月十三日
 始業式、難波田城公園内古民家での体験活動、宿泊体験活動、流しそうめん、遠足、おにぎりパーティー、調理実習、クリスマスパーティー、終業式等

三学期 一月十二日から三月十一日
 始業式、避難訓練、もちつき、通室修了証書授与式等

*通年、軽運動や卓球等もできます。
 *例年、右のような行事を行っています
 が、今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、行事の中止や変更することがあります。

学習や体験活動に加え、お子さんの状態や気持ちを十分に配慮しながら、学校復帰や社会的な自立に向けて様々な取り組みを行っています。

通室を希望する方は、担任の先生に申し出ていただくか、本室まで直接ご連絡ください。

(問合せ) 富士見市教育相談室
 TEL 049125315313

(担当者) 指導員 門田・松丸・白澤



教育委員会だより

《令和4年度 富士見市教育行政方針(抜粋)》

- I 学びあい、高めあい、夢と希望をはぐくむ教育の推進
 - 1 児童生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導による学力の育成
 - ・学習用PCや授業支援システムなどを活用し、友だちとかかわり合いながら、自らの学びを深める児童生徒を育成します。
 - ・ICT支援員の拡充や、中学校及び特別支援学校への若手教員育成指導員の配置拡大などにより、教職員の指導力向上を図ります。
 - ・STEM教育を順次拡大します。
 - ・豊かな人間性をはぐくむインクルーシブ教育を推進します。
 - 2 人との交流や感動体験を通じた豊かな心の育成
 - ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めます。
 - ・道徳の授業を要とし、教育活動全般にわたり豊かな心の育成に努めます。
 - ・多様な学びの場を確保し、不登校児童生徒の社会的な自立をめざします。
 - ・教職員研修、医療機関と連携した教育相談、巡回教育相談などの充実により、児童生徒の心のケアに努めます。
 - ・「私たちの未来、50年後の富士見市」をテーマとした作品展を開催します。
 - 3 自らの健康・安全を守る資質・能力と健やかな体の育成
 - ・主体的に自他の命を守ることができるよう防災教育に取り組みます。
 - ・敏捷性を高めるため、「縄チャレ」や外遊びを推進します。
 - 4 地域の教育力を生かし教育効果を高める学校教育の推進
 - ・教職員の負担軽減に取り組み、子どもと向き合う時間の確保に努めます。
 - ・調理業務の委託化や学校給食費の公会計化に向け、準備を進めます。
 - ・小・中学校6校の体育館へ空調設備を設置します。
 - ・水谷小学校の校舎整備に着手します。
 - ・高等学校等教育資金の借入に対する利子補給制度を拡充します。
- II 学びあう地域社会をめざす教育の推進
 - 1 家庭・地域の教育力の向上
 - ・家庭学習応援事業の充実に努めます。
 - 2 生涯にわたる学習機会の提供と学びのネットワークの推進
 - ・子ども大学☆ふじみにおいて、児童による市議会体験や特別講演会を実施します。



希望の登校・満足の下校

本郷中学校 教諭 山田 和憲



新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中で始まった令和三年度。「希望の登校・満足の下校」このスローガンを掲げ、二年二組はスタートし

であること。まずは何事も自分たちで考えて実行すること。失敗を恐れないことを伝えました。二つ目は「他喜力」です。「自分」も大切だが、「他者」を尊重する気持ちを持つこと。

間が育つ」ことを伝え続け、床と共に人間性を磨くよう伝えました。素直な生徒たちは、試行錯誤を繰り返しながら、「三つの力」を身につけようと努力を続け、集団としての

力伸ばしていききました。そのひたむきな姿には、感動を覚えました。大きく成長した生徒たちの目は希望に満ち溢れており、晴れやかな表情で下校していきます。それは私が理想とする学級の姿でした。四月、生徒たちは自分たちの力に自信を持って三年生へと進級しました。彼らはきつと新しいクラスでも「三つの力」を發揮し、「希望の登校・満足の下校」を実行することでしょう。

ました。私はこのスローガンを達成させるために「三つの力」を身に付けようと生徒たちに伝えました。一つ目は「自治力」です。学校生活の中心は生徒

渦中の友を助ける気持ちを常に持つことを伝えました。三つ目は「掃除力」です。本郷中学校では黙々清掃を行っていることもあり、生徒たちには常に「よい環境にはよい人

編集日記

春、四月、始まりの時期。様々なスタートがきられる時です。気持ちもフレッシュ、ちよっぴり不安や緊張もあります。このような心とはうらはらに時は流れていくものです。

四月二日の新たなスタートの場所。ゆっくりと空を眺めました。うつつらと水色の空。遠くにはふんわりピンク色の桜の木。足元に目を移すとほんのり黄緑色の芝生。心癒される風景でした。こんなにゆったりと風景を眺めるなんて久しぶりの感覚です。大切にしたい一瞬です。

時を振り返ると、本当に「あつという間」に過ぎてしまう感覚です。一年や二日を振り返ると、どんなことが心に残っているでしょうか。意外と少ないものです。「もっと時間を大切にしよう」「今を大事にした日々を過ごそう」そんな気持ちでこの一年をスタートさせたいものです。

この『きんもくせい』では、富士見市内での学校の「今」を紹介していきます。子どもたちの頑張りを、そして、各学校での取り組み等を多くの皆様を知っていただけたら幸いです。年に四回の発行をどうぞお楽しみください。

(齊藤七実)

令和4年度の学校教育だより「きんもくせい」の編集委員の先生方をお知らせします。今年度も富士見市の教育理念「人間尊重」の教育を基本とし、その実現を求めて編集に携わっていただきます。

- 《編集委員長》 齊藤 七実 (富士見特別支援学校校長)
- 《編集副委員長》 高原 剛 (東中学校教頭)
- 《編集委員》 富田 香織 (水谷小学校教諭)
- 新井 美沙枝 (水谷東小学校教諭)
- 川村 絵玲奈 (ふじみ野小学校教諭)
- 福井 智子 (西中学校教諭)
- 天谷 峰子 (水谷中学校教諭)